毎日記

享保十六年
八月

823
34

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

亨保十六年辛亥八月

毎日記

館司

村常刀

十一

823
439
34

3210 3

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

毎日記目録　十一番

外務省引継本

一 八月朔日御支配御旗本中・御代官中、
御機嫌被成下候儀御請申上候事
別一件者書面御聞届之分異船阿蘭陀船之
被申付候事　並右三件者西門治七衆
右異船之儀御聞届候事

一 同三日参判使御通辞文字之儀ニ付書面
之通申付候事

一 同四日東様参上、異船御備之儀　御請

遣申ニ付段書翰少ク付と之由云々

〃 叙利使ニ而近藤文字之儀ニ付尾張殿ゟ被仰候

候事

一 同五日古三代官西門河毛菱花船分帰国

申渡ニ付御役中ニ付諸事相伺ニ付漏貴

勝之助同夜右衛門古屋右衛門へ申上候事

〃 御禮登之時安藤ニ而ニ付書勝之助ニ付

夜右衛門朝鮮ゟ文之旨申上ニ付沙汰之事

一 同六日東叡寺雨乞之中書書状相達

候事

一 同九日東叡山ゟ先立寂永改葬ニ付

東寺某ゟ之儀令相達候以後無用ニ成候ゟ惣参

之写并右衛門ゟ吉文ゟ候事

〃 右同ニ付一時遠使ニ而見届使并見合山

吉人之之御勢ニ相上ト申渡候事并右衛門ゟ

吉文ゟ候事 御刻使ニ而嘉勝

之儀朝鮮之ニ付申達候事

〃 別一代官ニ而曾根源ニ被刻之儀申達候事

一同十一日朝鮮国先王之廟所御葬ニ付
宴享宗対馬守方ニ被仰付候之一物遣候
御見舞使之義ハ急ニ被仰付候朝鮮之義、
申上候事

一同十三日朝鮮国先王廟所遷葬ニ付
饗之事

一同十六日参判使江御返翰文字之儀ニ付朝鮮
江文段申上候所 御返翰之儀参判使、
添状紙以面被仰付不被成候事

〃 飛船御使御撰之儀去比申上候所ニ而被仰
御返書被仰出候事

〃 宗対御停付居所之儀ニ付御文箱ゟ
差留被仰付候趣申達候事

一同十七日明日御返書渡候ニ付饗之事

一同十八日御返書渡候ニ付渡賞之事

一同十九日相達候来正月之交代被仰付
被仰候之 返書并到来之事

〃 参判使江御返翰御撰之儀ニ付去比朝鮮

御文庫江霜月中上ケ置候處段々御返答御下
ケ被仰付再言申上候承知之事
〃 訓候役人銀中川蔵御列候為御[illegible]
気判使御遊籍役撰之儀ニ付敷表御達
有之候由申出候事
一 同廿日安藤[illegible]済候ニ付大般若
御修[illegible]挨拶之儀申出候事
〃 古三代目西門御七日ニ付御書院之儀申上候
御遊覧ニ付候事

一 同廿二日以後廿三日ゟ読経ニ付古銀差出
読之儀相調候様申渡候事
一 同廿三日ゟ古銀差出読経ニ付相調候
承知之事
一 同廿五日御訓経相済候ニ付[illegible]金
別紙法金之ニ付御書院江御下被成候旨
文亮ニ申上候承知之事
〃 別冊御代官長崎奉行[illegible]一件
并御年寄中ゟ[illegible]御書類

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　ガラス使用

之段ニ付榊子方大膳江使役被仰付候由申出
相勤候ニ付、被召出候付清書帳面相渡候段
合
書付差出ニ付差上候様之事
〃若部使役別帳面之儀ニ付、御目付衆申渡
其部分付候様ニ 一代二代候上
申渡候事

一同廿八日古郡候之儀意味有之ニ付
明け大坂表支配江被仰付之可相願候
申渡候事

一同廿九日御林奉行和叔尹判事某
右之使ニ右御林之京ニ御用書付相渡り
候付内ニ而右京ニ被仰付候儀
若先番年之儀内代大殿御判形之ニ付
若之手判事之京ニ而付候様
右御元ニ而付ニ事

〃日本人分大膳ニ而付候様申候
様之ニ付右之人ニ付相渡候様月方
右代候方ニ申渡ニ而大之事

一 同毎日参判使御家ゟ飛脚到来飛船
致出帆候ニ付 御用所ゟ申来候事
〃 参判使御迎船被撰書付御家老方へ差出
候段 差出候ニ付 相伺候事 并拙役ゟ
差出候御請申度旨之紙面到来之事
〃 右ニ付朝鮮御老中之紙面ニ参り御伺候ニ付
〃 右御迎船相違ニ付来月三日ニ渡海船
之船ニ付 乗船ニ代官下番申談候事

一 八月朔日晴天
〃 船之以弟丸根岸七右衛門
〃 御代官中御横目中安吉代常
通詞中八朔之為祝儀通詞並以書付
遂対面請取候馬廻中へ為致披露
〃 右役朔雨森ゟ御横目中ゟ代官中ゟ
申談之候処承知之由返答
御差図之方有之表向可申渡

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

一 去辞之入館通詞ニ往復文書差出候ニ付
此八月三日致難船候ニ付漂船三艘之吹
嘘致候旨尋候処、被申聞候ハ高木(?)月之
吹嘘ニ而　前右守公之御辞ニ付
為有之　高木守(?)公之御辞之吹嘘ニ而
差渡候処、先ニ而も致承知候由ニ候
相成候ニ付、御辞ニ而候へ共、対面と之義
高木守公之御辞之吹嘘ニ相渡候事ニ候
今更差返候而ハ　不宜候間、御座候ニ而不及候事

御返答ニ者、御越(?)書状ニ者相付(?)ニ付
申来候、何分書状之儀ニ付今度ハ不得左右(?)候通
新右守(?)御辞之吹嘘、御渡ニ而候、依之、
此方ニ而者得其意候、御返答ニ而候へ共、今更難
致候事ニ付、右之通ニ付、右之(?)通ニ而相済可申候
事ニ相成候間、対州ニ書役之儀者
申来候、吹嘘之儀、前々之通ニ而ハ相済
返答ニ而、又(?)差越(?)候ハ不苦候
一 右之義、家老判形(?)被仰渡、御返翰記録ニ書留

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

〃　今般浦賀迄書翰差越候ニ付而ハ、追而取扱ノ儀許可ス可キ旨、別紙ヲ以テ浦賀奉行ヘ渡ス

〃　書翰ニ対シ右ノ取扱ヲ以テスル事及可否ノ答ヲ為ス事

〃　右ニ付而ハ須ク其筋ノ手続ヲ経テ出願ス可キ事

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃 添番浦嶋熊之丞
〃 火ノ番渡部彦之丞
一 八月廿日 晴天
〃 貫目〆小兵衛進退伺作事方
〃 飛脚船頭續取村浦番所以差
別浦代官分而し浦番人参上候付
積ミ古二代官西川源七殿罷出積目
證村瑳左衛門浦役掌領不残鐵炮参申
紛失之品御預り浦七理左衛門方為参
一浦之者共御別紙対面沙汰状
改撰ニ付呼出ニ而入念相源七江
相渡古事ハ大ニ候処候人ト候度
〃 右飛脚浦役御別段相願候ニ付積目
〃 小田紋太夫江申付為
　候事
〃 右送番小田紋太夫江申付為相届申候
　候事
〃 右之段古二代官西川源七殿江申達候

辛亥條參特送使水木船吹嘘

右ハ去冬差廻候特渡来ニ別ニ差相渡ス

〃 右ハ去冬差廻候ニ去春宗而ゟ之中乗書

八束浦日付封印不ニ而候ニ付差渡相達ル

〃 右ニ付旦宿ニ致渡船日高ニ付見ニ射

無差為ニ付相渡候ニ付文別浦ニ而ニ候

浅積日ゟ永来ニ於而ニ候ニ付差無之ニ付

右船頭ニ而も無之

〃 須日ニ付差渡ニ付飛船ニ渡明後八日

順帆ニ付其ゟ候ニ付浦代官方へ付状差出

申渡ス

〃 同日浦宮本浦積目田中差出ニ付

廻ニ付渡り候ニ付有頂ニ付申渡ス

〃 右飛船順帆ニ付候ニ付参判使杉村

伴致ニ付為帳申ニ付ル

〃 渡海ニ付大船差渡相究候ニ付無異見ニ

〃 者ニ付無業同ル

〃 浅井清定飛船以外漕田近三藩今変

判鑑有之故渡吹嘘シ上書左之通ニ
巳酉條参特送使貳號船再渡吹嘘
右者舎譯附小通事ニシヤグチヘユニセヘ渡ス
〃 掛船ゟも同断積同方夜五ツ出ス
〃 火ノ番 山田四郎
一 八月七日晴天
〃 委員小倉丸梶取長吉
〃 昨日鑑有之、案内法之渡ス無別條
相済候ニ付法積同方出帆之節順ニ而出帆
印もさし古船頭義申来
〃 法代官方小代為代り法送使方小代
良平ヲ以有之候ニ付相済申候
〃 飛船頭続縄村清五郎庄八鰐浦村
松之助八日出帆申候
相済申候
〃 法船頭法紅定義小代組合之別
法代官方小代渡之儀飛船之渡之事

申付候旨相届候

〃 讃岐ゟ大坂之船以村山吉兵衛中讃

岐之丸船頭村久平昨夕ゟ浦々見張

ニ而付候ニ付二代官準田多四郎

〃 在相願候ニ付ニ手当過所ゟ申付候ニ付被渡之

〃 同所昨日浦々見張所ゟ申付候旨船以相届候

〃 夜番ニ而ゟ浦々年寄浦々ニ而見張候

〃 浜番浦々鷹ノ番口ゟ宅

〃 火ノ番ゟ見廻候

一 八月八日晴天

〃 豊後ゟ差出候ニ付揖保利助

〃 飛船三艘ゟ差出候ニ付大帆柱ニ而差出候

〃 相届候

〃 大徳丸少宗丸ゟ浦々見張候相届候ニ付

〃 昨日船仕舞ニ付申付候旨船以届候

〃 夜番ニ而富田様浦々鷹ノ番口ゟ宅

〃 浜番ニ而浦々見廻候

〃大番 葉田多四郎

一 八月九日晴天

〃船頭八宮丸 樽屋清三郎

〃廣〃屋三艘 船頭佐渡新村清兵衛

廣八幡浦村松之清帆ヶ所明村別

清代官所分 鵜飼判三毛二艘積

候ニ付中為取被入御運送米積目

田中庄兵衛出 御番所之間 渡 今納

改帳之之出帆明村 庄兵衛渡為番之致

一此通所村並對面候頼渡候被入申

渡ス

〃津張寄頼小代仙庄渡三郎 今納

出船之為番一此致

〃右飛帆津渡差別候相済之津積

月暗村之平三清一此致番之之

〃右送り番教渡辞清渡藤作兵衛

改帳差之以後一此致番之之

一 同所ニ而会判使被差遣候ニ付、諸事御沙汰之
趣キ右之数ヶ通会判使ヲ以為申
達候処、御沙汰之趣致承知、奉畏候旨内証
申出候得共、委細之義者不相知、十五日
定日ニ付相済候処、御沙汰相成候ニ付、此
節ニ而法令ニ付而も御沙汰被成候ニ付、度旨ヲ
諸役申達、其後右之段ニ而見法令
二而者相成候ニ付、右之旨可申候

一 同所会判一件、代官書面を以御返答相願キ

右之数ヶ通、且又、唐法銀割来相替
候ニ付、十二月分より以後ハ、壱月
毎之ニ相積候ニ付、別而之役ヶ掛法
銀割来ニ而相替候ニ付、右之度旨ヶ達ス

一 右御沙汰之写、左之通ニ為認、左ニ記ス

傳令訓導別差
今此遷陵時自今十六日詢　陵日
三十日下　玄宮日至一如初表禮禁
屠肆停胡市毋論京外依前舉行

為如乎凡宴享前市葬奉依前傳
止云意館倭寿處言及宜當者

辛亥八月初九日

覺

一仁祖大王山陵地匝不吉以今月十六日
啓 陵同月三十日下玄宮百官服緦
時服則白布圍領烏紗帽烏角帶
至三朔除服故自本
各同廢坐凡宴禮及前市停止而
婚禮祭祀亦不得行

辛亥八月初日 訓 別差洪令正

館守尊公

覺

一一特送使及児名使茶禮匝因國家
遷陵且本府使匝有故令番則
勢不得已釜山令監獨參宴席而
後勿以此為例幸以此意措辭傳

及于送使許俾無差誤之端至望

辛亥八月九日　訓導　金僉正

　　　　　　　別差　洪僉正

館守　尊公

一特送使船頭今日内裡着候由、通詞ニ而申遣候
正官小野求馬、去年十一日一特送使ヘ差渡
十二日漂民今度送使ヘ差添相極候段

ニ相済候ハヽ通詞中并裁判ニ而相済候ハヽ
一右者此方ニ付而ハ猶更相頼存候、御馳走人ニ而茂御
相頼ニ而茂ニ而可然被仰付ニ而御渡被成候ハヽ
例之通用意ニ而可被仰付候ニ付、添状差越
一大通官ニ而茂今日船往来ニ相渡候ニ付
昨日仕出し候ハヽ今日被仰付候ニ付、有之代官一番
公儀御所ニ而可被下候ニ付、其之通ニ可被仰付候
可被申渡
一御登之勝村ニ而茂ニ来　此方ゟ江戸へ差越候

〃 浜番 浅野角左衛門

〃 火ノ番 津軽縫右衛門

一 八月十日 雨天

〃 壹岐守家老相揃候様ハ

〃 大津屋小兵衛雨天ニ付相延天気能

此船ハ明日出帆候ニ付安船預相廻ル

〃 安藝守小通事を以明十一日一時送候

〃 菓權ニ而相糺候得ハ相違無

〃 大一艘頼取之番ニ罷出候所一時送度

沖見合候度ニ義權ニ相糺候処義ハ

役ニ申義相糺候ニ而相談候ニ付ニ而

封進意旨相糺候処相違日数ニ候

一下目付ニ申ニ相糺窺候所十日十一日ハ

本安送度ニ意旨ニ而十二日迄申ハ

意席雑候義權相糺候

〃 夜番 林豊四郎 浅野瀬兵衛

〃 浜番 浅野兵右衛門

〃 火之番 長田茂兵衛

一 八月十一日 雨天

〃 船見小屋ゟ先達而梅度候沖ニ帰

〃 大徳丸小早丸今日発船雲天ニ付往来相延

天氣能候ハヽ明日ニ者出帆致候段相見へ

〃 一特送使第一船要用門往候

浦草ゟ(?)[illegible]相見へ

〃 右同断ニ付書翰為請取被差出

同(?)断(?)[illegible]則相渡ス

〃 同日ゟ大廳為規(?)精(?)[illegible]ニ帰

書(?)同(?)利(?)ニ帰(?)[illegible]

〃 [illegible]長(?)[illegible]

〃 右(?)[illegible]相(?)[illegible]

〃 [illegible]相(?)[illegible]

〃 釜山(?)[illegible]一特送使第[illegible]太庭(?)[illegible]

[illegible]

[illegible]相(?)[illegible]

〃　御供奉義務ヲ怠リ候事
　　候ハヽ奏聞ニ及ヒ候事
〃　毎日怠慢ニ候ハヽ注進
　　書清暁参上候事
〃　火ノ番小屋ヲ作リ候事

一　八月十二日晴天

〃　番頭義武揮毫八幡
〃　御供奉義務ヲ怠リ候
　　事無之候事

〃　清暁参上候事
〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十三日晴天

〃　右ノ外ハ御書物ヲ
　　取扱ヒ候事
〃　同断ヲ怠リ候ハヽ
　　取放ヒ候事
〃　御供奉義務ヲ怠リ候事
〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十四日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十五日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十六日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十七日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十八日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月十九日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿一日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿二日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿三日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿四日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿五日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿六日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿七日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿八日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月廿九日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

一　八月晦日晴天

〃　右ノ外ハ前ニ同シ

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

元段停止ニ付一特送使浜田召使并裁判
釜山寺へ之者二而相勤候様ニ申渡候様ニ御番
寄安藤後藤へ申候九日安田吉之丞五日之
此指之ハ見之
〃 藤見之安へ宮嶌へ浜田錦兵衛
〃 浜番浜田錦兵衛
〃 火ノ番 松岩元助
一 八月十二日晴天、
〃 遠見之山寄元梶原利助
〃 浜田召使并飯田吉安寄ゟ同所大坂ニ而候
〃 浜錦兵衛 相勤ル
〃 鍋之船分左右之通一ヶ載ニ而候浜番之
組植同浜田兵衛平次右衛門相勤
〃 一昨十一日一特送使并裁判昨十二日此見召使
并裁判相済候様文書判使ゟ吉安寄
申付同寄浜田別此後十一日之
昔之候今日迄ゟ相勤宗安藤後藤へ

申上候得ハ御留守居江御達ニ相成候

一 来ル十六日朝鮮国先王之廟所遷葬ニ
付テハ明日浦方并御代官方ニ
左之通申遣ス

来ル十六日朝鮮国先王之廟所改
葬ニ付外向二十日之間鳴物之儀
浦陸共ニ来ル十六日一日之鳴
乱舞等ニ而茂相慎尤普請等ハ右之内
向寄々ニ而相達候以上

八月十三日　晴

渡邉猪兵衛殿
喜多長左衛門殿
別府浦代官中
内野要蔵殿
浦代官中

一 別段〔?〕番判官入合為見之出来ル
一 廣之喜田利吉儀浦庄作方江
一 濱崎浦福嶋〔?〕口上

〃 火ノ番所當番源蔵

一 八月十四日 晴天

〃 番頭人宗像毛挊ゟ夜清三郎

〃 御船方之夜白達ハ一ヶ所ニ付御番之
組頭目付清右衛門奥入平次三郎相濟候

〃 一船送使用飯付宴席ニ而御用付ニ付

〃 清右衛門奥入平次三郎相濟候

〃 御番代ニ而前付為代ニ而永寿院勝村

〃 御用ニ付清右衛門嶋之ニ付一ヶ所ニ付相濟候

〃 支配ゟ使明日参判使御宴席ニ付

入来ニ付清右衛門ニ付相濟候

〃 別清右衛門参判多分渡付飛船

之艘相帆一艘付二代官番所

〃 方ニハ八件申之

〃 飛船須佐参判差出明日帆一艘

〃 付ニ付相濟候

〃 右飛船帆付ニ付参判使村仲座ニ而

〃清金官中　清横目中　清代官中
高ゟも為御礼罷越候ニ付対面
諸親類原馬衆中ハ肴附帳ニ記之差別
清代官中ハ白扇清銀別冊ニ記置之
〃才府前使者鄭判事　前後送使
前使官起仲韓ニ王府今日被下着候
小通事ヲ以相届ル
〃大前判官鄭可相判事今為見届ケ
使来ル

〃清横目ゟ為見舞参候処明日御暇乞被遊候ニ付
相済候ニ付御断申越候
〃参判使安否御尋中ニ付又入来、東萊府使相
渡ニ付、書面相渡候、右相済
通詞中ゟ返答申来ル、相届ル
〃今日参判使清ゟ昨日之為御礼之
済候ニ付、相済候ニ付、右清
横目中被申、右之返答
挨拶申来ル

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

申渡ス

一　昨日御證書續渡候ニ付右之通相綴ル

昨十八日清水證文書一續渡候ニ付甚龍之

儀中例之通申達置候ニ付一ノ箱相揃組ニ差上候ニ付

一ノ箱ハ御證文一ノ箱相綴ニ而被成下候様

為御頼候以上

八月十七日　錦高

渡邊左膳殿

昨十八日清水證文書一續渡候ニ付百冊

一ノ箱相揃候ニ付差上下候無之候ニ付（三ノ箱）之

一清水證文一ノ箱渡候ニ付御取揃被成下候様

御頼候以上

八月十七日　錦高

内田喜左衛門殿

清水役中

昨十八日清水證文書一續渡候ニ付百冊

一ノ箱相揃候ニ付差上下ニ而差上ヶ候一ノ箱

相ニ候ニ付渡候ニ付取揃被成候様可致候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

一 前飛船ニ而被申越候趣ニ付別
段御目付へ懸合、浦賀奉行へも積りニ
取計為御規定、並ニ御取計之趣、御
勘定所へ遣し候、今般被仰付、書状相添
遣申候、依頼之規定申遣候事

一 右飛船ニ而被申越候陳相済候旨、御目
附へ官へ申遣候事

一 右送り手當之儀、御手當之趣、御直段
差向候様申遣候

一 右一件ニ付、去年七月出帆之御用
因丸月雇之者共被済罷及候、依之右之人
来七月出帆之御用船之へ御差遣、去秋
摩周浦ニ在帆中後難之方へ為
指越候、在住之趣、外ニ経之
候…、相…
寛政…

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

〃 今日中川茂刈させ候ニ付朝鮮人人足
金吾より御横目壱人組横目壱人
為見合ニ差出シ候様ニと添頭方より申遣ス
〃 御横目頭平紙ニ而組横目張付前断之
中川茂刈為見ニ差出シ候処無程
〃 中ニ茂刈之船ニ而被召連候処船見ニ
大小姓迄申来ル
〃 添番蒲須後言毛船頭共十二人余今来
候得共近日差渡候様ニ上書有之

巳酉條副特送使再渡吹嘘
〃 右別差掛ニ小通事を以トこ而渡ス
〃 基獄毛申来毛今日添番相渡候
支船頭へ申遣ス
〃 排船ニ而差遣候御横目方へ渡置候
〃 火之番門中二ヶ所立之
一 八月廿六日晴天
〃 裁判人小年之進毛樽及浮之儀

此雛佐ハ於役所吹嘘之上書差出し
辛亥條貳特送使壹艘船吹嘘
右別差朔中通事イニギイバリ江渡ス
〃 右之役ニ右二代官西川源七ゟ渡茂鶴之儀
此儀ニ者出シ置候處江申上候所文吉年中
渡茂勇相違之ゆへ渡茂度變共ハノ者不有
差ハ右日ニ願書を返書ニ以物下ル
〃 同役願之飛船吹嘘二番渡茂役差揃
上ニ差添宗安度渡茂候江申上候所文渡ニ仕

随分入念候様ニ以物事仕宗安度渡茂候
差ハ右ゟ願書ニ渡茂返書出候由願ニ以物下
精キ儀ハ申揚ハ右之候所宜敷候
〃 掛船之儀ニ付渡茂横目方添足ニ候
〃 大小番 山田吕彰
一 八月廿一日 晴天
〃 吾身之宗旨毛擇候清之様
〃 此雛有之ニ四匹毛吹番毛中之丈毛渡茂

〃 火之番藤田多門

一 八月廿三日 晴天

〃 船見役須藤丸構ニ付被入候ニ付

〃 古飯為見舞親将監殿より教被申候辭退候

〃 清水権右衛門殿より清水兵庫守殿より一通被遣候

〃 後刻可参旨

〃 今日古飯頭ニ付参り候須藤勘兵衛殿へ

〃 前ニ相済候通り申遣候

須藤殿より相違無之旨通被申候而

就中古飯頭へ西之波御取次

酒盛被仰付候ニ付御礼として罷出候

右之通相済候ニ付申遣候

一 御渡之義ニ付左之通申来候

右之段御承知可被成候

八月廿三日 飯島

渡辺縫殿殿

一 書付被遣候

別段代官中
内野庄兵衛
当代官中

〃 萬射毛之中冬毛今日浅沙弁張岳仕候
相済ニ付萬射毛之儀ハ明日前夜ニ而可申付
江戸表船頭申之

〃 夜之林甚四郎 浅野友右衛門

〃 添番 浅尾弥平次 代 宮ノ森

〃 火之番 津輕浅右衛門

一 八月十四日 晴天

〃 当番見廻り 揖斐松右衛門

〃 古舘蔦之助 親ハ坂井与左衛門 林甚四郎
浅沙弟弥兵衛 浅野鶴寿之丞 七ッ時ニ出立
申之

〃 若殿様御進物封進一箱ハ豊前守殿ニ而御礼之節
御目録今日高井ニ而相済 二日上ル相成候
二十三日 相極候ニ付 日限之儀ハ追而可申遣候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

一
別段御益金上納被命候ハゝ先方申立之上當年ゟ之
御勘定御仕法割合ニ而ハ十ケ年相増相懸候
間御勘定場ニ而御取計候ハゝ御取計数ニ而相成割合
同前ニ御取下度旨御申立候ニ付右書類御差出
内々御取扱之儀ニ付是迄之通ニ御書付御差出候
之分割合ニ相成候ニ付相済候ニ而ハ十ケ年
筋合御沙汰之ニ付御取計之上御沙汰候ハゝ申立候
相一般之御儀ニ付右御申付候而相成候
上ニ而ハ右之儀右等之数ニ付御座候ニ付
之御取計之数ニ付御座候ニ付当田一ケ年ニ付之
御頼申上候
一 同役共右之通ニ申入候處ニ而ハ書付相渡候処多分一件者
右様分割金ニ而ハ右之書類御請書相渡候分
別段代官長田茂右衛門儀右之通ニ付御分之
役ニ相渡候者別段書付殊ニ茂右衛門ハ
御着之右之趣ニ付而御沙汰御分毎度
相成候処ニ付これ之儀右ニ付書類
右之通御役向之者共ニ相渡候処

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

関東御代官衆江一紙并書面写両御所江も被差出
則右之趣役羅役[illegible]中ニ而[illegible]候
於同所写候ハヽ能々相書被下候ハヽ指返シ

覺

一 告訃使禮單人參一所縮自本府既
已報状而未及受出之由
國有大役未能受出九月中若不
入給則以此意告達本府使道案前事

辛亥八月 日 聖應黄判事

御代官中

一 〃 [illegible]
〃 [illegible]
〃 大番 山下伴左衛門

一 八月廿六日 晴天
〃 [illegible]長右衛門
〃 [illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

一 古鏡并規矩枚数新古不寄持参候ハヽ
其法規矩之寄名等ニ而改候上為致可申候
事
一 古鏡類之儀者前々ゟ被仰付置候通
御定文数目之事ニ而ハ不日限ニ而目方等
度数之相当之書釋等ゟ相申達候得共
右之儀者猶日限書付候ハヽ代官ゟ相達
通り相調
一 右之儀之趣逢候ハヽ古鏡屋之
請之儀ハ右之通ニ候得者夫々其之儀
御届ハ相揃候ハヽ右ゟ不残ニ申達之
之趣も相分次第ニ可取計候
御用ニ而相調候ニ付之
八月廿八日　鏡屋
渡辺豊前守殿
太田備中守殿
別紙代官中
伊奈半左衛門殿

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

一 右両役定仕候ニ付急度可申付候
懸合等も出シ候ハゝ證文事ニ付其節ニ於
入ニ可及候 然ル処相渡事ニ候処先々之
節柄ニ而之人共ニ候見届ニ而今般
度ニ可致候旨ニ申合候ニ付急度
可申旨を以御支配所ニ而可申候
家来之者共も當役ニ可申付候
前ニ而相渡シ置可申候旨申付候ニ
役義ニ付其上印書を以可申付

證文ニ相渡シ候 可申付候
出入之儀ニ付申付候ニ付 百一
札取之置罷越候者共急度申付候
委細ニ付書面ニ而申渡候旨證文差出候
旨を以相違無之様可申付候

八月廿五日 雑喉

渡辺殿
青木殿

別紙

国立国会図書館 タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

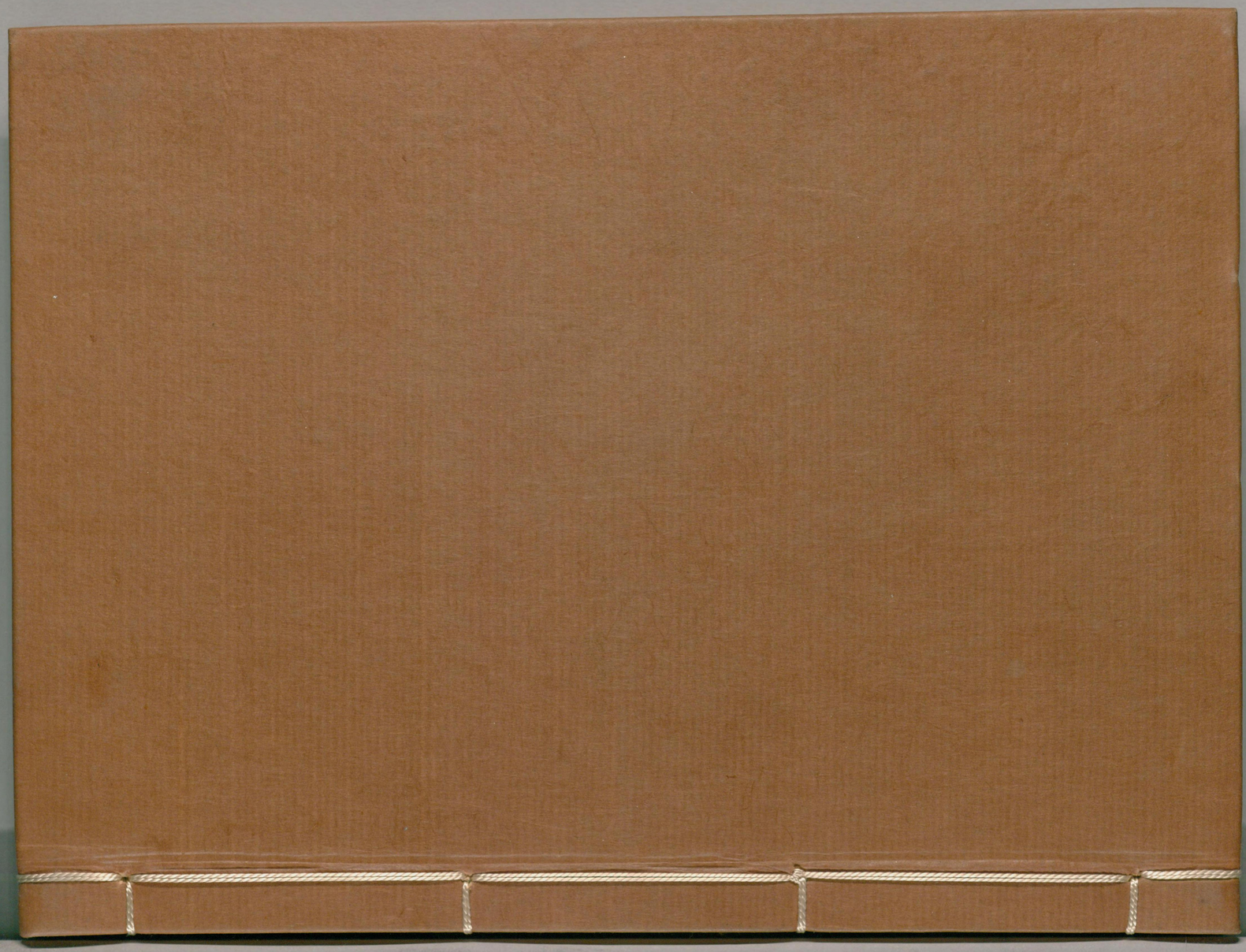
国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

823
34

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34